平成17年度　公営企業局　事業概況

総収入は、43億4,310万6,267円（前年度比90.6%）、総費用は、42億2,006万3,704円（前年度比95.2%）で、収支差引で、１億2,304万2,653円（前年度比34.4%）の利益を生じている。

建設改良については、橘病院に防潮板新設工事、防風堤改修工事を、さざなみ苑に30床増床工事（平成17～18年の２ヶ年工事）を行い、また医療機器は電算機等を購入した。

▲増床したさざなみ苑

各施設業務の概況表

	病床数	病床利用率(%)	外来数(1日平均・人)	総収益（千円）	総費用（千円）	入所利用率(%)	定　員(人)	学生数(人)
東和病院	131	88.3	218	15億7,220万７	15億9,456万４			
橘　病　院	36	96	152	６億6,915万６	６億4,305万７			
大島病院	99	84.6	134	10億8,960万５	10億732万			
やすらぎ苑				２億2,305万２	２億2,727万２	98.5	50	
さざなみ苑				２億2,010万７	２億3,540万８	97.1	50	
看護学校				２億4,404万２	２億1,360万８		105	116

監査委員よりの決算審査の結果・総評

代表監査委員
末満良勇

【審査の結果】

審査に付された一般会計、特別会計の歳入歳出決算書などは、いずれも法令に準拠して作成されており、決算計数は正確であり、執行は概ね適正なものと認められた。

【決算総評】

平成17年度決算状況の財政分析指標（経常収支比率99.6%、公債費比率18.6%、起債制限比率15.7%）を見ると、公債費比率は前年度対比では、低くなったものの、県内町村平均に比べ依然高い数値となっている。これらの数値で分かるように、義務的経費（人件費、扶助費、公債費）が多く、また自主財源の乏しい本町では、国庫補助金及び地方交付税の見直しによる三位一体の改革の影響が、財政構造の硬直化の要因となっており、非常に厳しい財政状況となっている。

合併して１年と数ケ月経過し、このような状況に対処するために、歳入面においては、自主財源の町税、使用料の徴収率の向上は元より滞納整理体制の強化を図り、各種収入未済金の削減等、収入の確保に全力で取り組むとともに、町債の発行は極力抑え、借入金の依存度の引き下げに努められたい。

一方歳出面では、経常的な経費の節減、各種団体への補助金や委託料の見直し及び施設の統合等事業の総合的な運用活動を考慮する。また、増加傾向にある特別会計への繰出金についても、赤字補填的な繰出しを続けることは今後において困難な事態が生じることとなるので、経営努力及び業務内容の見直しも必要と考える。

当年度に策定した総合計画の基本構想に掲げている「元気・にこにこ・安心で21世紀にはばたく先進の島」の実現に向け、行政改革大綱、集中改革プラン、財政健全化計画に沿って、最小の軽費で最大の効果が得られるよう不断の努力を望むものであります。